

令和6年度 学校評価(資料)

1. 学校教育目標

「自立・協働・創造」

- ・自立…自分を見つめる力(メタ認知力)を育成する
- ・協働…他者を尊重し、他者を認め、他者から学ぶ力を育成する
- ・創造…課題や目的を解決するために、柔軟かつ深まりのあるアイデアを創り出す力を育成する

2. めざす子ども像

- ・自ら学び行動する子ども
- ・自他敬愛の心を持ち、協力する子ども
- ・最後まで粘り強くがんばる子ども

3. 基本方策

- (1) 確かな学力と自立を育む教育の充実
- (2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の充実
- (3) 教職員の資質と指導力の向上
- (4) 「ともに学び、ともに育つ」教育の充実
- (5) 社会に開かれた学校づくりの推進
- (6) 学びのセーフティネットの構築

4. 重点項目

(1) 確かな学力と自立を育む教育の充実

重点項目	本年度の取組み 及び指標	結果	分析(成果と課題)
「わかる」「できる」授業の充実	○1人1台端末を活用した個別最適で協働的な学びにより、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、日々授業改善に取り組む。 ・「授業は、わかりやすい」、「タブレットを使った授業はわかりやすい。」(肯定的回答)90%以上	「授業はわかりやすい。」 (肯定的回答)86.1% 「タブレットを使った授業はわかりやすい。」(肯定的回答)82.7%	授業において、「振り返り」などの意見交流をタブレットで行うなど効果的な活用は広がっている。 タブレットのシンキングツールなど、今後、さらに授業において効果的に活用して、子どもの学びを深めていく。 授業において、学習に苦手意識のある児童にスポットをあてるとともに、授業と家庭学習を連携させるサイクルをめざす。
家庭学習の充実	○自学自習の定着に向けて、家庭学習においてタブレット端末を効果的に活用する。 ・「家で、学校の授業の復習・予習をしている。」肯定的回答65%以上	「家で、学校の授業の復習・予習をしている。」(肯定的回答)44.5%	
探究的な学習活動の充実	○総合的な学習の時間をはじめとする探究的な学習活動において、児童が多様な情報を活用し、異なる視点で意見を交流して互いの考えを深めるなど、協働して取り組む学習活動となるよう工夫を図る。 ・「授業中、ペアやグループで話し合う活動を行っている。」肯定的回答90%以上	「授業中、ペアやグループで話し合う活動を行っている。」(肯定的回答)88.5%	

(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の充実

重点項目	本年度の取組み	結果	分析(成果と課題)
児童の自己肯定感の向上を図る取組の充実	○日々の授業や学級経営において、肯定的な言葉がけを行い、児童の自己有用感を向上させる。 「自分のよいところを知っている。」肯定的回答75%以上	「自分のよいところを知っている。」 (肯定的回答)55.5%	子どもたちの自己肯定感を高める必要性について、教職員間での共有化が図れた。
体力向上の推進	○体を動かすことを楽しみ、積極的に運動しようとする意欲を高める。 「運動は好きですか」肯定的回答90%以上	「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で「運動は好きですか」(肯定的回答)男子91%、女子77%	今後は、自分自身を見つめる時間・振り返りの確保を意図的に取り入れる。 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果を踏まえ、授業における「めあて」、「振り返り」活動の充実など授業改善を図る。
食に関する指導の充実	○給食指導を含む食に関する指導を充実させ、児童が食事の重要性を学び、健全な健康管理ができるようにする。 ・「授業や給食で、食の大切さを学んでいる。」肯定的回答85%以上	「授業や給食で、食の大切さを学んでいる。」(肯定的回答)77.3%	食に関する指導の全体計画の見直し及び充実を図る。

(3) 教職員の資質と指導力の向上

重点項目	本年度の取組み	結果	分析(成果と課題)
学校における「働き方改革」の推進	○会議資料の事前共有 ○授業準備にかかる時間の確保 ・「超過勤務縮減に向けて、自身の業務に対するタイムマネジメントや業務改善を意識した働き方を行っている。」 肯定的回答75%以上	「働き方改革を進めることで、意欲的に働き、自分の能力を高めることができた。」(肯定的回答)57.1%	「日常」の見直しとして、職員室内の導線確保と整理整頓を行い、取り出しやすさと片付けやすさを追求した。保護者への配付の手紙、児童の連絡帳、職員の会議資料、研修内容の周知等、様々な場面でGデジタルの有効活用を図った。
初任期指導体制の構築	○初任者指導教員を中心に日常的なOJTによる実践的な研修を組織的・継続的に推進する校内体制を整える。 ・初任期を対象とするミニミーティングを年間6回から7回程度開催する。	初任期を対象とするミニミーティングを年間7回開催。	

(4) 「ともに学び、ともに育つ」教育の充実

重点項目	本年度の取組み	結果	分析(成果と課題)
支援教育の充実	<p>○個々の教育的ニーズを踏まえた教育課程の改善。</p> <p>○支援教育の視点を通常の学級にも取り入れ、子どもたちの「安心」につなげる。</p> <p>・「先生は、わかりやすい授業づくりに向けて努力している。」肯定的回答 90%以上</p>	<p>「先生は、わかりやすい授業づくりに向けて努力している。」(肯定的回答)83.5%</p>	<p>子どもの資質・能力の育成に向け、一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じた指導方法・教材、学習時間等の柔軟な設定を行う。</p> <p>支援教育について、保護者・地域の方に</p>
支援教育に関わる情報発信の充実	<p>○「学校ブログ」を通じて、「ともに学び、ともに育つ」の観点からの障害への理解を高めるための情報発信を行う。</p> <p>・「学校ブログ」における支援教育に関わる記事の発信、年間 12 回以上</p>	<p>「学校ブログ」における支援教育に関わる記事の発信、年間 12 回以上発信。</p>	<p>幅広く理解を深めていただくため、引き続き、支援教育に関する情報の発信を続けていく。</p>

(5) 社会に開かれた学校づくりの推進

重点項目	本年度の取組み	結果	分析(成果と課題)
情報発信の充実	<p>○学校ブログを中心とした情報発信の強化</p> <p>・学校だよりは、年間13号以上、学校ブログは、課業日における 1 日当たりの平均記事数3以上。</p>	<p>学校だよりは年間13号、学校ブログは、課業日における 1 日当たりの平均記事数8以上発信。</p>	<p>保護者・地域の方に、少しでも学校の様子を知ってもらうために、学校ブログを有効活用できた。</p> <p>次年度も引き続き、学校の日常的な情報について、発信を続けていく。</p>

(6) 学びのセーフティネットの構築

重点項目	本年度の取組み	結果	分析(成果と課題)
いじめの未然防止と早期発見	○いじめの定義の教職員の理解向上といじめ認知後の組織的対応の強化 ・「安心した雰囲気の中で、授業を受けることができている。」肯定的回答 90%以上	「安心した雰囲気の中で、授業を受けることができている。」(肯定的回答)64.5%	今年度は、市教育委員会の指導主事による「発達支持的生徒指導」の研修を校内研修として実施し、子どもの心理的安全性の確保におけ、子どもの自己肯定感を高める生徒指導の充実を図った。

■ご意見等

- ・全国学力調査結果より、基礎基本より資料を活用して表現する等に課題があるとの分析であった。「個に応じた指導」を推進する中で、子どもの応用力は増していく。
- ・運動会や授業参観などで、子どもたちが一生懸命に学習活動等に取り組んでいる姿を多くみることができた。
- ・50周年記念行事についても、子どもたちの学習発表の場など、「子どもが主役」の式典が良かった。
- ・子どもたちは、登校時の朝の挨拶をよくしてくれるため気持ちが良い。子どもたちを見ると、元気が出る。
- ・学校の取組みとして、視覚情報による整理・発信などは、誰かに分かりやすく伝える上でよい。子どもたちにも同様のことがいえる。視覚情報は認識しやすい。
- ・教室の前方にカーテンを設置し、教室のユニバーサルデザイン化や不登校支援ルーム(ホッとルーム)の充実など、学校の取組みの努力は感じられる。
- ・家庭で不要になったソファの提供を呼び掛け不登校支援ルームの環境整備を進めるなど、地域や保護者の方の参画・協力を得て学校をより良くしていく取組みは大切。
- ・子どもの自己肯定感を高めるための「発達支持的生徒指導」の視点は大事。子どもをほめるのは、結果をほめるのではなく、先生がタイミングを逃さず、その行為について、評価することが大切。
- ・「子どもに学びを委ねる」という言葉は、大切な言葉である。学ぶ環境・場を設定することにより、子どもの主体的な学びにつながる。
- ・「フードロス」など、社会的な課題への取組みは大切。フードロスのチラシを置いた活動・行為のフィードバックがあるとなおよい。例えばお客さんからアンケートを取るなど。
- ・「教育」は短時間で結果がでるものではない。地道な取組み、努力を積み重ねていくことが大切。